広報誌
うえるふぇあ
38 号
2008.1.25
発行　特別医療法人慈生会広報委員会　鹿児島県枕崎市白沢北町 191 番地　TEL (0993) 72-0055

年頭所感　先進医療に期待して

新年明けましておめでとうございます。本年も何卒よろしくお願い致します。

旧年中は、医学の進歩・発展という観点からは、大変めまぐるしい展開があり、全世界に衝撃が走りました。人の皮膚細胞から幹細胞の一種である万能細胞（iPS 細胞）を作り出すことに成功した京都大学理化学研究所発生・再生科学研究センター山中伸弥教授らグループの業績であります。幹細胞とは、木の幹から枝が分かれるように、様々な細胞に分化する能力を持ちながら増える細胞であり、万能細胞と体性幹細胞がります。受精卵が 100 個ほどの細胞に分裂したところで取り出すのが胚性幹細胞（SE 細胞）で、これとほぼ同じ能力を持つのが人工多能性幹細胞（iPS 細胞）と言われるもので、どんな細胞、組織にもなり得る「万能細胞」と呼ばれています。

これに対し、体性幹細胞は能力が限られ、特定の組織にしかなれません。体性幹細胞は、増殖しながら組織や臓器の小さな傷を治し、体内のメインテナンスをする。これまでに皮膚、血管、神経、心臓、肝臓、腸などで見つかっています。

今、これら幹細胞の働きを利用して、組織や臓器を作り出し、病気や弱った臓器や組織を治療する再生医療に注目が集まっています。特に、血液や骨など、特定の組織になる能力を持つ体性幹細胞を使う再生医療は実用化に向けて進んでいます。自分の組織からとった物なら拒絶反応の心配がなく、臓器移植の機会の少ない日本では、再生医療が臓器移植に取って代わる時代がくるかもしれません。今、最も進んでいるのが、骨髄からとった幹細胞を利用した再生医療で、精神神経科領域では、国立循環器病センターの田口明彦医師（脳循環研究室長）らが、骨盤から骨髄を取り、単核球を分離して静脈に注射して、脳梗塞の重い後遺症の治療を目指している事が報道されています（朝日新聞 2008 年 1 月 14 日）。単核球が血流に乗って脳に届き、血管を再生するだけでなく、周辺の神経幹細胞を活性化し、脳の損傷部位の再生を促す作用を臨床応用したものであります。

このように、内視鏡外科手術、移植医療、再生医療などの先進医療を導入する事により様々な難しい病気に挑戦していくと医療費も上がるのではないかという心配もありますが、ものは考えようで、「今まで 2 ヶ月ぐらい入院しなくてはならなかった患者が、数日で退院でき、直ぐに職場に復帰できると言う場合、治療費は高いかもしれないが、入院費は節約され、ベッドで寝ているはずの人が働けるようになるものであれば、一国の経済にとってはよい事ではないか？」という考え方もあります。

政府の医療費抑制政策や、勤務医が病院を去り、診療科の閉鎖や閉院が相次ぎ、今や地域医療は崩壊の危機に曝されているといわれ、わが国の医療の将来を悲観する向きもありますが、国家が有能な国民の英知を結集して、何とか国家財政と医療費のバランスをとり、現在の国民皆保険制度を維持できれば、急速な医学・医療の進歩・発展が持続することにより、今では不治の病と言われる病気に罹っている人々も、近い将来救われる日が必ずやって来るのではないかと期待しています（2008 年正月の初夢）。

皆様のご健康とご多幸を心よりお祈りいたします。

ウエルフェア九州病院院長　中島泰廣

特別医療法人慈生会　経営理念

- 患者様の健康回復に努め、もって患者様の生活安定と幸福に貢献すること
- 地域住民の健康維持管理に努め、もって地域社会の発展に貢献すること
- 職員の生活向上と幸福をはかること

病棟行事

12 月 19 日めぐみ病棟、みどり病棟合同でクリスマス会を開催しました。手作りのクリスマスカードにスタッフがメッセージを添え、みんなでツリーを飾り会場の飾りつけを行うなど、患者様協力のもと準備を進めました。

枕崎保育園の園児 12 名が、かわいらしい衣装でお遊戯を披露し、さらにプレゼントまでいただき、園児達のかわいらしさに、感激のあまり涙をみせる患者様もいらっしゃいました。お遊戯の後は握手をしたり、話をしたりと子供達との触れ合いを楽しんでおられるようでした。次に吾妻流淳花代会（あつかよかい）の方々５名が見る機会のあまりない本格的な踊りを衣装チェンジしながら計 9 曲披露してくださいました。よく知った演歌やフラダンスもあり、患者様も口ずさんだり、手拍子するなど感動のひとときでした。最後にジュースとケーキでお腹を満たし、すばらしいクリスマス会になりました。

ボランティアの皆様本当にありがとうございました。

介護福祉士　萩原のぞみ

１月１５日「新年を祝う会」をうみがめ病棟で開催しました。

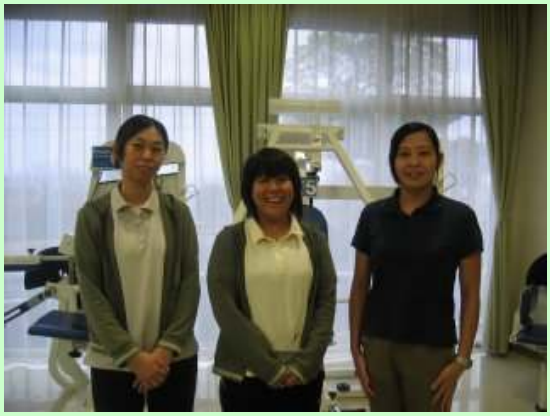
宮原師長による新年の挨拶のあと、ボランティアの方々による踊りの披露がありました。新年にふさわしい優雅な日本舞踊があり、さらにはフラダンスまで！！普段は眠気のやってくる昼下がりなのですが、患者様は手拍子をされたり、踊りの振りを真似られたりと目を輝かせてご覧になりました。「最近では日常で着物を着なくなったけど、着物姿を見ると姿勢がピッとするね」と呉服屋をしておられた患者様が話して下さいました。とても素敵な病棟行事でした。ボランティアの皆様本当にありがとうございました。

レスティア病棟	枚聞神社
うみがめ病棟	豊玉姫神社
めぐみ病棟	豊玉姫神社
ﾃﾞｲｹｱいその苑	枚聞神社
ﾃﾞｲｹｱあおぞら	竹田神社

あけましておめでとうございます

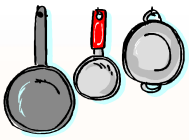
初詣

部署紹介 作業療法課(OT)



私たちは作業療法課です。現在女性スタッフ５名で行っています。

作業療法とは活動を通じて、気分転換や、欲求の充足、不安な気持ちや落ち着かなさの調整、健康な機能を促進します。また人とうまく付き合えるように援助したり、生活リズムを整えたりもします。こういった事を入院中に行ないながら、より良い生活を退院後に送れるように援助します。



レストラン課

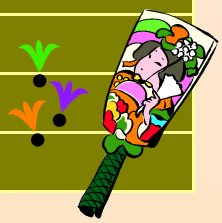
1月の行事食

おせち料理

正月に特別な料理を作って祝うことは、中国から伝わりました。１年のうちに１月１日、３月３日、５月５日、７月７日、９月９日というように、奇数である月と奇数の日を５日選び、五節句として定めました。おせち料理を正月料理の意味に使いますが、広くは五節句の料理でもあります。おせち料理は五穀豊穣を願い家族の安全と健康、子孫繁栄の祈りを込めて、縁起のよい海や山でとれるさまざまな食材を用いて作ったものです。

献立

1	日の出蒲鉾	13	高野豆腐の含め煮
2	伊達巻	14	ひねり梅花形人参の含め煮
3	数の子の土佐醤油漬け	15	末広形大根の含め煮
4	芝海老の錦糸巻揚	16	信田巻
5	竜眼真丈	17	芋羊羹
6	柿なます	18	黒豆
7	鰻のケンチン焼	19	栗の甘露煮
8	サーモンの手綱寿司	20	花レンコンの酢漬け
9	豚ロースの野菜巻	21	金柑の甘露煮
10	紅鮭の柚子香味焼	22	錦玉子
11	帆立貝の粒山椒煮	23	絹さや
12	昆布巻		



豆知識　食材の云われ

栗きんとん･･･黄金色の小判をイメージした栗きんとんは、財産がたまるようにという願いがかけられています。
黒豆･･･黒豆には、まめに暮らせるようにという願いがこめられています。
昆布巻･･･昆布は「喜ぶ」、巻は「結び」を意味しています。
数の子･･･数が多いことは良いことであり、子孫繁栄になぞらえています。
かまぼこ･･･赤は魔よけ、白は清浄を意味しています。
伊達巻･･･巻き込んだ形が、進化、教養、文化を表しています。
海老･･･腰の曲がった姿を老人に例え、長寿の願いがこめられています。
紅白なます･･･紅白のおめでたい色を表し、平和の願いがこめられています。
れんこん･･･沢山の穴に例え、将来の見通しが良くなるようにという願いがこめられています。
錦玉子･･･錦は財宝に通じるので縁起がよいとされます。

「職場風土改革促進事業」について　医療法人慈生会ウエルフェア九州病院院長　中島泰廣

堅苦しい事業名ですが内容的には次のような事です。少子高齢化が言われ久しくなりますが、この少子化への企業としての取り組みのことです。

次代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、育成される環境整備を進めるため、平成 15 年 7 月、「次世代育成支援対策推進法」が成立しました。

この法律に基づき事業主は労働者が仕事と子育てを両立させ、少子化の流れを変えるための次世代育成支援対策のための行動計画を策定しなければなりません。

行動計画には、①計画期間　②目標　③目標を定めるための対策とその実施時期の 3 つを定めなければなりません。

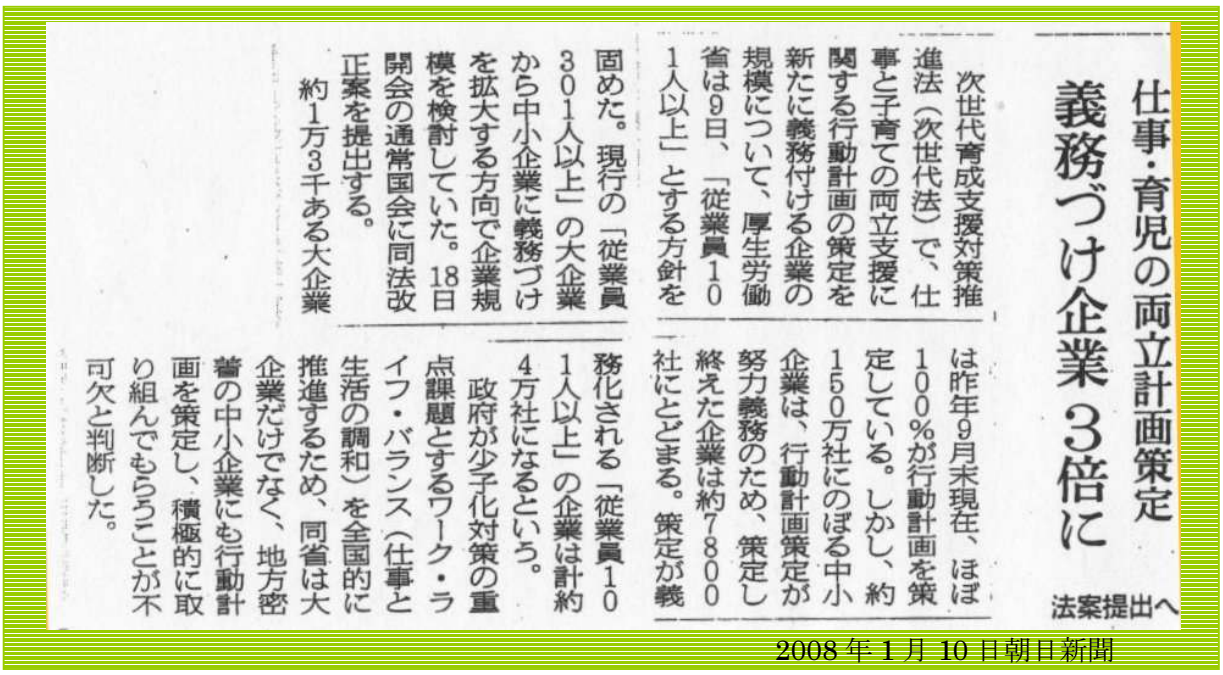
共働き世帯が増加している中、男女を問わず、仕事と家庭、とりわけ仕事と育児を両立できるライフスタイルを求める人が増えてきています。企業において、仕事と家庭を両立しやすい仕組みを整えることは、社員の生活を充実させることにつながり、仕事への意欲を高め、更に優秀な人材の確保など、企業にとって経営的な効果が得られ、仕事と家庭の両立支援は欠かせないものと言えます。

当院では、21 世紀職業財団（厚生労働省の外部機関）鹿児島事務所より、仕事と子育てを両立させるための「職場風土改革促進事業実施事業主」の指定を受けました。これは先年鹿児島労働局よりファミリーフレンドリー企業の表彰を受けたのも一因しているようです。

「当院の事業への取り組み」は下記のとおりです。

1　育児・介護休業法に基づく育児休業や時間外労働・深夜業の制限、雇用保険法に基づく育児休業給付、労働基準法に基づく産前産後休業など諸制度の周知

2　出産や子育てによる退職者の再雇用制度の実施



仕事・育児の両立計画策定

義務づけ企業 3倍に

法案提出へ

次世代育成支援対策推進法（次世代法）で、仕事と子育ての両立支援に関する行動計画の策定を新たに義務付ける企業の規模について、厚生労働省は9日、「従業員101人以上」とする方針を固めた。現行の「従業員301人以上」の大企業から中小企業に義務づけを拡大する方向で企業規模を検討していた。18日開会の通常国会に同法改正案を提出する。

約1万3千ある大企業は昨年9月末現在、ほぼ100%が行動計画を策定している。しかし、約150万社にのぼる中小企業は、行動計画策定が努力義務のため、策定し終えた企業は約7800社にとどまる。策定が義務化される「従業員101人以上」の企業は計約4万社になるという。

政府が少子化対策の重点課題とするワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を全国的に推進するため、同省は大企業だけでなく、地方密着の中小企業にも行動計画を策定し、積極的に取り組んでもらうことが不可欠と判断した。

2008 年 1 月 10 日朝日新聞

コスモス会報告

コスモス会(認知症家族会)

平成 19 年 11 月 10 日に「介護保険制度について」というテーマで、第 11 回コスモス会を開催いたしました。とても身近な制度だけれど、どのように利用したらいいか分からない、介護保険のサービスにはどのようなものがあるの？と言った皆様からの疑問・質問にお答えして、当法人の介護支援専門員(ケアマネージャ)から介護保険について講演をさせていただきました。

座談会では、ご家族の皆様から、日頃の介護においての困ったことや、体験談について話を聞かせていただき、家族の皆様にとっては交流の場、また私どもにとっては、改めて介護の大変さを知る機会になりました。今後も、家族会が、家族の皆様の交流の場となれば、幸いです。次回のコスモス会は 5 月を予定していますので、是非ご参加ください。

家族会に対するご意見ご要望がございましたら、お知らせください。

座談会

すずらん会のご案内

すずらん会（精神障害者家族会）

下記のとおり、第 12 回すずらん会を開催いたします。たくさんのご参加お待ちしております。

記

目的　ご家族の皆様と、病気や障害について共に学びあい、そして語り合う事

日時　平成２０年３月２２日（土）　午後 1 時 30 分～3 時 30 分

場所　ウエルフェア九州病院　作業療法室（1 階）

内容　1.講演

「服薬について」講師　水流　啓太（ウエルフェア九州病院薬剤課）

2.座談会

日頃、家族の方々が患者様と接している中で、感じていることや分からないこと、困っていることなどをみんなで話す場です。

対象者　精神障害者をかかえるご家族様

ストレスマネジメント Vol.7

臨床心理室　今村智佳子

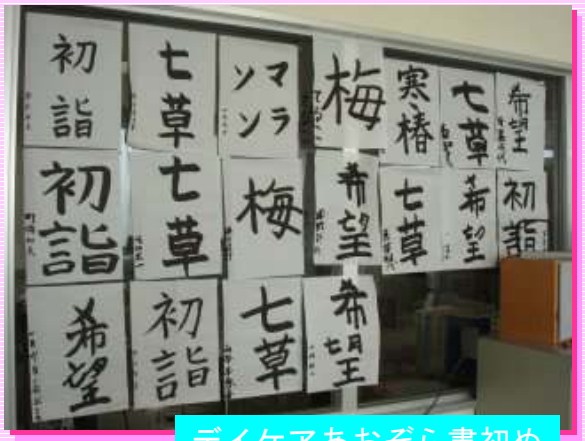
「今日、子どもさんに何回『早く！！』と言いましたか？」

私が小・中学校の保護者の方にストレスマネジメントをするときに一番初めに尋ねる言葉です。「早く起きて！」「早くご飯を食べて！」「早く学校に行って！」「早く宿題して！」“早く”という言葉や時間から受けるストレスを**時間的切迫感**といいます。大人も同じことです。私達は一日を時間に応じて過ごしています。規則的なうちはいいのですが、時間に追われてしまっては心身ともに疲弊してしまいます。時には時間的切迫のない状態を積極的に持ちましょう。

作品紹介

うみがめ病棟貼り絵

レスティア病棟貼り絵



デイケアあおぞら書初め

華やかな　踊りをもらう　クリスマス
点滴を　見上げし窓に　氷雨かな
夕焼けに　群れて飛び交う　トンボたち
どの顔も　おせちを前に　えびす顔
うれしさや　初夢までも　おせち食べ
幸あれと　多くを願う　初日の出

ペンネーム“いつも門松”さんの作品

当法人内でのＯＴ活動･個人活動での作品を紹介しています。
みなさんもご自身の作品を紹介してみませんか？

第 60 回九州精神神経学会・第 53 回九州保健学会に参加して

ウエルフェア九州病院　後藤義規

平成 19 年 11 月 15 日・16 日の 2 日間、第 60 回九州精神神経学会・第 53 回九州精神保健学会が北九州市にて開催され、当院より理事長・看護師 1 名・精神保健福祉士 2 名が参加しました。両学会合同シンポジウムでは「精神科チーム医療の実践と課題」・「地域・職域における自殺対策の現状」がありその他のセミナー、一般演題がありました。

一般演題では服薬の自己管理、退院支援等の演題が多くあり、服薬自己管理の中には、自己管理する事でセルフケアの意識が高まったという演題もあった。自己管理をさせるにあたっては色々な条件があり失敗の症例もあったが、多くの症例を聞く事により退院を目標とする患者様へは内服の自己管理を、積極的に行っていかなければならないと感じました。

退院支援では、長期入院患者への退院支援や患者家族を抱えた退院支援などの内容がありました。退院支援を行っていく中で、まず患者様の退院していく事への不安を抽出していく事が重要であり、また退院を受け入れる家族のケアも必要であるということ。長期入院患者の退院支援をするにあたっては他職種との連携を密にする事も重要だが、自分たちがまず意識を変えて関わっていくことも必要である事を学ぶ事ができました。

今回の学会参加に置いて各病院で取り組んでいる退院支援、内服の自己管理などを知る上で大変有意義なものになりました。

理事長鮫島秀弥が、シンポジウムのパネラーとして参加しました。

両学会合同シンポジウム I「精神科チーム医療の実践と課題」

シンポジスト

Ⅰ－1　精神科チーム医療の実践と課題～精神科診療におけるクリニカルパス導入の試み～
　　鮫島秀弥（ウエルフェア九州病院）

Ⅰ－2　精神科チーム医療の実践と課題～看護師の立場から～
　　比嘉和枝（平和病院）

Ⅰ－3　精神科チーム医療の実践と課題～作業療法士の立場から～
　　田尻威雅（桜が丘病院）

Ⅰ－4　精神科チーム医療の実践と課題～薬剤師の立場から～
　　神村英利（福岡大学筑紫病院薬剤部）

Ⅰ－5　精神科チーム医療の実践と課題～精神保健福祉士の立場から～
　　吉田真由美（大分丘の上病院）

お知らせ

精神科救急　2／11（月）　　内科当番　1／27（日）

うえるふぇあ(welfare)は
健康・幸福・福祉・繁栄を意味します

発行人　鮫島秀弥
〒898-0089
鹿児島県枕崎市白沢北町 191
TEL（0993）72-0055　FAX72-1199
URL　http://www.welfare-kyusyu.or.jp/
e-mail　jiseikai@welfare-kyusyu.or.jp

編　集　後　記　オリンピックイヤーの始まりです。色々な話題の飛び交う北京オリンピック。どんなオリンピックになるのでしょうね。
今年も皆様のお役に立つ広報誌を発行できるよう頑張ります。ご意見・ご感想をお寄せ下さい。
皆様にとって地球にとって穏やかで明るい一年となることをお祈りいたします。（とら）